

こんにちは。



しんいち



市川のほそだ伸一です。

ほそだ伸一の「市川市政 三本の矢」

ほそだ伸一かわら版11月号では、「市川市政三本の矢」=福祉(安心)、防災(安全)、食育(健康)の中の「防災」についてふれました。今月号では、市川市の「福祉」についてお話しさせていただきます。



高齢者福祉

2030年には市川市民の30%が 65才以上に！

私の実家(市川市曾谷)では、98歳になる祖母を、共に77歳になる両親が介護しています。しかしベッドからの離床や車椅子への移動だけでも、本人・両親ともに大変な労力を要し、自宅での入浴は残念ながらとても難しい状態なので、デイサービスを利用しています。わが家のケースのように、ケアマネージャーなど家族以外の介護の専門家が第三者として介入し、その時々で必要な事を冷静に判断し相談しながらプランを立て、本人と家族が心身ともに負担の少ない生活を目指していくことに本来の福祉の意味があります。その環境をより充実させるために今早急に求められていること、それが行政の展開する福祉サービスの質と量の向上です。

ほそだ伸一は、特別養護老人ホーム等の「入所待機者ゼロ」を目標に掲げ、本人と家族の負担を軽減するしくみ作りを目指します！

児童福祉

市川市の待機児童数 297名 (全国の市で16番目に多い！)

子育て世代の方々にも目を向けなければいけません。市川市における保育園の待機児童数は現在 300 名近くになり、働きたくても働けないお母さんが多くいらっしやいます。共働き世帯が当たり前の昨今、夫婦ともに気兼ねなく働きに出られることはとても大切なことです。そのためには保育園等の児童施設の充実が急務と考えます。

ほそだ伸一は、「待機児童ゼロ」を目標に掲げ、子育て世代が安心して働ける町作りを目指します！



ほそだ伸一

1965年3月16日 市川市生まれ

- ・つくし幼稚園・平田小学校・第八中学校・明治大学法学部卒
- ・実家は新田4丁目にあった二葉食肉店
- ・あさっての市川を考える会 代表・市川食育いいね!倶楽部 代表



オフィシャルサイト



フェイスブック



市川いいね!倶楽部

「市川」でつながる FBグループ